

1人当たりの所得を都道府県の平均値で見ると、最大と最小の自治体の間には2倍近い違いがあります。しかし、同じ都道府県内でも豊かな地域とそうでない地域があります。

やさしい経済学

地方再生の行方

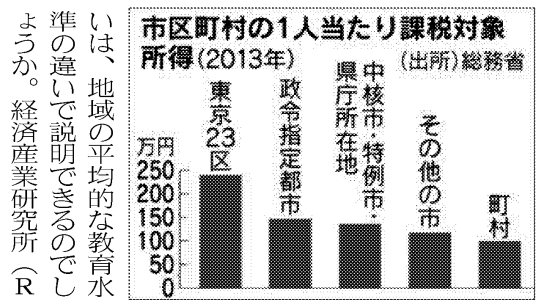
第1章 地域格差と財政

慶応義塾大学准教授 別所 俊一郎

と政令指定都市、中核市、そして県庁所在地とその他の市、町村に分けて、それぞれの平均値を見ます。

開きがあり、いわゆる「東京一極集中」が確認されます。地域の平均所得に差があるのはなぜでしょうか。一般に、教育水準が高いほうが個人の所得水準は高くなりますから、教育水準の高い人々が集まっていれば、その地域の平均所得は高くなります。では、地域の平均所得の違

人口集中で所得に差



IETI)で行われた研究によると、平均所得に似た動きをする労働生産性(労働者1人当たりの生産量)の違いは、教育水準や労働者1人当たりの資本ストックの違いだけでは説明できず、それ以外の要因が占める比率が大きいといえます。都市経済学では、大都市には労働力や資本といった生産要素だけでなく、知識の伝達などによる集積の利益が大きいと考えられています。